

科目名 (英)	経絡経穴Ⅰ Meridian Acupuncture I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時間	後期
学科・コース	鍼灸科						
【授業の学習内容】 身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。 経絡経穴学はⅠとⅡで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちⅠでは経絡経穴総論、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の経穴を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。							
【到達目標】 鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身につける。なお目標②～③については、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の7つの経脈を対象とする。 目標①「経絡」「経穴」とは何か。その定義、概要、臨床的意義について説明できる。 目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。 目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。 目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。							

授業計画・内容	
1回目	導入: 学ぶ意義と到達目標について理解できる。
2回目	導入: 評価方法を理解し、授業の進行にあった対応が理解できる。
3回目	手の太陰肺経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
4回目	手の太陰肺経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。 総論①: 骨度法と同身寸法について説明できる。
5回目	手の太陰肺経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
6回目	【小テスト①】肺経 総論②: 経絡、属絡関係、正経十二経脈について説明できる。
7回目	総論③: 奇経八脈と正経、経脈の分類について説明できる。
8回目	総論④: 経穴、経穴に現れる反応の種類について説明できる。
9回目	【小テスト②】総論①～③ 総論⑤: 要穴の種類と特徴について説明できる。
10回目	手の陽明大腸経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)できる。
11回目	手の陽明大腸経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
12回目	【小テスト③】総論④～⑤ 手の陽明大腸経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
13回目	任脈①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)できる。経穴部位と取穴方法を理解できる。
14回目	【小テスト④】大腸経 任脈②(★): 指定された経穴が取穴できる。
15回目	足の陽明胃経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
準備学習 時間 外学習	(目標①)単元終了後の復習プリントの実施。学んだ内容を基に、身近な方へ説明をする実践的トレーニングが必要です。 (目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。 (目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生 へのメ ッセージ	単純な暗記科目と捉えられ、暗記が苦手な学生には敬遠されがちな科目です。しかし、実際には【授業の学習内容】に記した通り、治療において活用する知識を学ぶ科目です。今後学ぶ科目との関連性や臨床での意義を十分理解した上で、覚えるだけの勉強にならないようにしてください。 授業計画: この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社	

参考書:解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版

科目名 (英)	経絡経穴学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
	(Acupuncture Meridians Ⅰ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限	後期
学科・コース	鍼灸科						
【授業の学習内容】 身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。 経絡経穴学はⅠとⅡで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちⅠでは経絡経穴総論、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の経穴を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。							
【到達目標】 鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身に付ける。なお目標②～③については、督脈、任脈、肺経、大腸経、胃経、脾経、小腸経の7つの経脈を対象とする。 目標①「経絡」「経穴」とは何か。その定義、概要、臨床的意義について説明できる。 目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。 目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。 目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。							

授業計画・内容	
16回目	【小テスト⑤】任脈 足の陽明胃経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
17回目	足の陽明胃経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
18回目	【小テスト⑥】胃経① 足の陽明胃経④: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
19回目	足の陽明胃経⑤(★): 指定された経穴の取穴ができる。
20回目	【小テスト⑦】胃経② 足の太陰脾経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
21回目	足の太陰脾経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
22回目	足の太陰脾経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
23回目	【小テスト⑧】脾経 督脈①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
24回目	督脈②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
25回目	督脈③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
26回目	【小テスト⑨】督脈 手の太陽小腸経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
27回目	手の太陽小腸経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
28回目	手の太陽小腸経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
29回目	【小テスト⑩】小腸経 まとめ①: 国家試験過去問題演習を行い、出題傾向が理解できる。
30回目	まとめ②: 定期試験のポイントが理解できる。
準備学習 時間 外学習	(目標①)単元終了後の復習プリントの実施。学んだ内容を基に、身近な方へ説明をする実践的トレーニングが必要です。 (目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。 (目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生 へのメ ッセージ	単純な暗記科目と捉えられ、暗記が苦手な学生には敬遠されがちな科目です。しかし、実際には【授業の学習内容】に記した通り、治療において活用する知識を学ぶ科目です。今後学ぶ科目との関連性や臨床での意義を十分理解した上で、覚えるだけの勉強にならないようにしてください。 授業計画: この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。
【使用教科書・教材・参考書】	

教科書:新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書:解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版